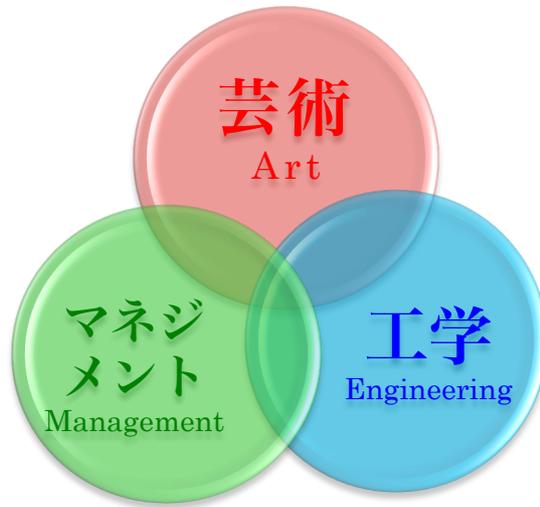




九州大学芸術工学研究院 ホールマネジメントエンジニア養成講座 平成 25 年度 特別講義スケジュール&概要

平成 24 年に「劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（通称一劇場法）」が施行され、今、劇場・音楽堂等を活用し、管理運営するプロフェッショナルな人材の必要性が叫ばれています。本法律では、劇場・音楽堂に芸術監督、経営監督、技術監督の専門人材配置が要請されています。



これまで劇場・音楽堂等の総合的管理運営能力を有する人材育成を目的として多様なプログラムを提供してきた九州大学では、今年度から新しく文化施設や文化芸術振興分野で働く社会人を対象として、芸術・マネジメント・工学を三本の柱に据え、総合的かつ実践的な知識の習得に特化したプログラムを提供いたします。

上記各分野から四名の講師をお招きし、以下の日程で特別講義を開講します。

第 1 回	1月27日(月)	施設安全管理	草加 叔也(空間創造研究所)
第 2 回	1月30日(木)	施設管理運営	衛 紀生(可児市文化創造センター)
第 3 回	2月 3日(月)	芸術文化論	平田オリザ(大阪大学コミュニケーションデザインセンター)
第 4 回	2月 6日(木)	舞台芸術市場創出	河原 政治(メディアンスデザイン)
第 5 回	2月13日(木)	空間音響設計	日高 孝之(竹中工務店技術研究所)
第 6 回	2月20日(木)	公共文化政策	藤野 一夫(神戸大学大学院国際文化学研究科)
第 7 回	3月 3日(月)	舞台映像芸術	猪子 寿之(チームラボ)
第 8 回	3月 6日(木)	施設設備計画	山海 僥大(彩の国さいたま芸術劇場)
第 9 回	3月10日(月)	アーツカウンシル	菅野 幸子(国際交流基金情報センター)
第10回	3月17日(月)	文化施設計画	伊東 正示(シアターワークショップ)
第11回	3月24日(月)	伝統芸能	野村 萬(能楽師・日本芸能実演家団体協議会会長)
第12回	3月27日(木)	舞台芸術	栗山 民也(演出家・新国立劇場演劇研修所)

講義は毎回、18:30より、九州大学大橋キャンパス3号館322教室にて行われます。
<http://www.kyushu-u.ac.jp/access/map/ohashi/ohashi.html> の15番の建物です。

講師略歴

〈芸術分野〉

平田 オリザ (ひらた おりざ)

大阪大学コミュニケーションデザインセンター教授。劇作家・演出家、劇団青年団主宰。2000年より桜美林大学准教授、2006年より大阪大学大学院教授。1995年『東京ノート』で岸田國士戯曲賞受賞。2011年フランス文化省よりシヴァリエ章叙勲。著書に『わかりあえないことから』（講談社現代新書）、『幕が上がる』（講談社）、『芸術立国論』（集英社新書）、『新しい広場を作る - 市民芸術概論綱要 -』（岩波書店）など。

栗山 民也 (くりやま たみや)

演出家、新国立劇場演劇研究所所長。早稲田大学文学部演劇学科卒業。平成12年から19年まで新国立劇場演劇部門芸術監督を務める。主な演出作品は「ゴドーを待ちながら」「GHETTO/ゲッター」、ミュージカル「マリー・アントワネット」、オペラ「夕鶴」「蝶々夫人」「リア」など。平成8年紀伊國屋演劇賞個人賞、読売演劇大賞最優秀演出家賞、芸術選奨文部大臣新人賞、同11年毎日芸術賞千田是也賞、同14年朝日舞台芸術賞、同22年読売演劇大賞優秀演出家賞、同23年芸術選奨文部科学大臣賞、同25年度紫綬褒章などを受賞。著書に「演出家の仕事」（岩波書店）がある。

猪子 寿之 (いのこ としゆき)

チームラボ代表。2001年東京大学工学部計数工学科卒業と同時に、情報社会のさまざまなものづくりのスペシャリストから構成されているウルトラテクノロジスト集団、チームラボを創業。サイエンス・テクノロジー・アート・デザインの境界線を曖昧にしながら、WEBからインスタレーション、ビデオアート、ロボットなど、メディアを超えて活動中。シンガポール『シンガポールピエンナーレ2013』（シンガポールアートミュージアム）にて、新作のデジタルアート「秩序がなくともピースは成り立つ」を発表（10月26日～2014年2月16日）。佐賀県にてチームラボ展（仮）を開催（2月28日～3月22日）。

野村 萬 (のむら まん)

能楽師 狂言和泉流。父・故六世万蔵(人間国宝)に師事。4歳で初舞台を踏む。日本を代表する狂言の第一人者として、1997年重要無形文化財個人指定(人間国宝)の名譽を受ける。2001年に日本藝術院会員、2008年に文化功労者となる。現在も多くの舞台で活躍する傍ら、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会会長、公益社団法人能楽協会理事、文化芸術推進フォーラム議長として、広く日本の芸能文化の振興発展に尽力している。東京都名誉都民、東京都東京芸術文化評議会評議員。

〈マネジメント分野〉

藤野 一夫 (ふじの かずお)

神戸大学大学院国際文化学研究所教授。ハイデルベルク大学客員研究員、ハンブルク音楽大学、ツイッタウ/ゲルリッツ大学等の客員教授を歴任。2011年よりベルリン自由大学国際高等研究所フェロー。文化経済学会<日本>理事、日本文化政策学会理事、(公財)びわ湖ホール理事、(公財)神戸市民文化振興財団理事等。編著に『公共文化施設の公共性一運営・連携・哲学』水曜社2011年、『ワーグナー事典』東京書籍2002年、訳書に『ワーグナー友人たちへの伝言』（『未来の芸術作品』）法政大学出版局2012年。共著に『市民活動論』有斐閣2005、『芸術が生まれる場』東信堂2009年など多数。

衛 紀生 (えい きせい)

可児市文化創造センター館長兼劇場総監督。NPO法人舞台芸術環境フォーラム地域演劇マネジメントセンター代表理事、文化経済学会<日本>理事、文化庁文化審議会専門部会委員、文化庁芸術選奨文部科学大臣賞審査員、芸術文化振興基金地域文化活動専門委員、長岡芸術文化振興財団アドバイザー。文化庁、財団法人地域創造、芸術文化振興基金、芸団協、芸術文化振興会議などの委員を務める。主な著書に『芸術文化行政と地域社会』、『これからの芸術文化政策』、『阪神大震災は演劇を変えたか』、『21世紀のアートマネジメント』、『地域に生きる劇場』など。

河原 政治 (かわはら せいじ)

株式会社メディアンスデザイン代表取締役。1987年、九州芸術工科大学を卒業後、大手展示内装会社に入社。同社企画部門にて文化施設の企画立案を初め、企業PR施設、ショールーム、展示会、テーマパーク、レジャー施設、複合商業施設等の企画立案に携わる。1995年、空間プランナーとして独立の後、1999年、有限会社メディアンス(2009年に株式会社メディアンスデザインに社名変更)を設立。「新しい価値創造をデザインする」スタンスにたって、コンセプト立案から事業収支、ブランディング、運営計画まで、幅広く企画コンサルティング活動を行っている。http://mediancedesign.jp/

菅野 幸子 (かの さちこ)

国際交流基金情報センター プログラム・コーディネーター。プリティッシュ・カウンシル東京勤務後、グラスゴー大学美術史学部装飾芸術コースにおいてディプロマ取得。1993年より国際交流基金に勤務、現在に至る。プログラム・コーディネーターとして、国際文化交流に関する顕彰制度や国際シンポジウムの運営、各国の文化政策・文化事情に関する情報の提供、各種コンサルテーションを行う。その他、東京大学大学院人文学部文化資源学専攻(文化経営学)後期博士課程に在籍し、英国の文化政策を研究。東京芸術文化評議会文化都市政策検討部会委員。

〈工学分野〉

伊東 正示 (いとう まさじ)

株式会社シアターワークショップ代表取締役。早稲田大学建築学科卒業。大学院で劇場計画の研究を行う。81～94年、新国立劇場の設立準備に参加。83年に(株)シアターワークショップを設立。劇場・ホールの基本構想から設計、現場監理、管理運営事業計画、公演プロデュース、ホール運営など劇場・ホールに関する業務の一切を引き請ける総合的なコンサルティングを行う。東京理科大学非常勤講師、北上市文化創造及び富士市文化振興財団理事、文京アカデミー シビックホール鑑賞事業運営委員会委員、劇場演出空間技術協会理事、OISTAT日本センター理事、日本アートマネジメント学会監事。

日高 孝之 (ひだか たかゆき)

竹中工務店技術研究所リサーチフェロー。77年九州芸術工科大学(現・九州大)芸術工学部音響設計学科卒、79年大阪大学大学院工学部修士課程(応用物理学)卒、現在、竹中工務店技術研究所勤務、リサーチフェロー。劇場計画・建築音響設計・騒音防止実務を担当。工博(京大)、技術士(応用理学)、アメリカ音響学会フェロー、アメリカ騒音制御学会正員。新国立劇場、東京オペラシティコンサートホール、東京宝塚劇場などの音響設計を担当。

山海 僥大 (さんかい たかひろ)

(公財)埼玉県芸術文化振興財団劇場部 部長。91～92年、文化庁在研でウィーン国立歌劇場にて劇場音響を研鑽。彩の国さいたま芸術劇場の開場(94年10月)から、各種公演に音響ディレクター、プランナーとして、またピナ・パウシュ、ローザス、ヤンファープル、アクラムカーンなどの海外カンパニーの日本公演では技術監督として関わる。04年から舞台技術業務を総括する立場で現在に至る。劇場の中長期保全計画作成と11年の舞台関係設備更新を主とする改修工事を推進。ほかに九大芸術工学部、日大芸術工学部の非常勤講師。

草加 叔也 (くさか としや)

空間創造研究所代表。劇場・音楽堂を中心に基本計画から施設整備、管理運営計画、改修計画などの策定に携わる。「長久手町文化の家」「可児市文化創造センター」「国立劇場おきなわ」「日田市民文化会館」「神奈川芸術劇場」などに関わる傍ら、ピーター・ブルック、ピナ・パウシュ、アリアヌ・ムニューシュキンなどの日本公演において技術監督などとしても活動。1989年芸術家在外研修員(文化庁)として渡英。東京芸術文化評議会・専門委員会委員(東京都)、(公社)全国公立文化施設協会アドバイザーなどを務める。